

第134回女川原子力発電所環境調査測定技術会

開催日時：平成27年8月5日 午後1時30分から

開催場所：パレス宮城野 2階 はぎの間

出席委員数：17人

会議内容：

1. 開 会

○司会 ただ今から、第134回女川原子力発電所環境調査測定技術会を開催いたします。議事に先立ちまして、本会議には委員数25名のところ、17名の御出席をいただいておりますので、本会は有効に成立しておりますことを報告いたします。

2. あいさつ

○司会 開会にあたりまして宮城県環境生活部佐野部長よりご挨拶を申し上げます。

(佐野環境生活部長あいさつ)

○司会 次に人事異動により新たに就任された委員の方を御紹介いたします。

東北電力株式会社女川原子力発電所技術統括部技術課長の新沼修一委員です。

以上でございます。

それでは、佐野部長に議長をお願いし、議事に入らせていただきます。

3. 議 事

(1) 評価事項

イ 女川原子力発電所環境放射能調査結果（平成27年度第1四半期）について

○議長（佐野宮城県環境生活部長） それでは、早速でございますけれども、次第に基づき議事に入ります。

初めに、評価事項のイの平成27年度第1四半期の女川原子力発電所環境放射能調査結果について説明をお願いします。

[環境放射線監視センター榎野委員から説明]

○議長 ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問がございましたらお願いをいたします。

関根委員、どうぞ。

○関根委員 どうもありがとうございました。幾つか質問とコメントがございますので、よろし

くお願いいたします。

第一に、最初のグラフや数値の訂正について、参考資料等がございましたけれども、原因についてご説明がなかったということが1点。

それからもう一つ、公表の仕方ですが、年報にこれをお出しになっているということでしたが、次の議題になるかと思えますけれども、それはそれで結構ですけれども、四半期報告自身は公表されていないのでしょうか。そちらの訂正ですね。その2点です。

○宮城県環境放射線監視センター榎野委員 先ほどの説明の中での訂正となった原因でございますが、まず平均値で訂正がございました。本来、現場でいろいろ点検したときにデータを欠測する場合がございますが、平均値を計算するときに母数となるデータの数を、本来は欠測のデータ数の分を減らして分母としなければならなかったものを、欠測とすべき部分の数も含めて分母としたため、訂正前の数値が若干低目になってしまいました。

それから、最頻値ですが、端数の処理で、通常、四捨五入した数値で評価しておりますが、それが端数を含めて処理をしたため異なった数値になったということです。原因について、システムのメーカーに確認しましたところ以上の理由でございました。

それから、前四半期の冊子については、原子力安全対策課から説明申し上げます。

○事務局 原子力安全対策課でございます。

前四半期報でございますけれども、こうした間違いが発見されました。これはテレメータの更新に伴いましてプログラムのチェックが行き渡っていなかったことによると私ども認識しております。そうした中で今、数字の間違い等につきましては遡及した形で訂正したいと考えておりして、前四半期報については、やっと印刷が上がってきたところでございました。本日の技術会でこうした結果について、これで妥当であると認めていただきましたなら、正誤表をつけまして改めて発送させていただくという対応をしたいと考えております。以上です。

○関根委員 どうもありがとうございました。先ほど年報のみの公表のご説明でしたので、四半期報についての公表というのが訂正ですね、それが気になった次第です。

続けて幾つかよろしいですか。

もう一つは、これも参考資料ではございますけれども、指標線量率の図の中に時々欠測めいたものが見えるものがあります。一応参考までにこれを挙げているかとは思っておりますけれども、ところどころに指標線量率の値に途切れが出ておりますね。それについてのご説明がなかったかなと思います。

それから、塚浜の可搬型のモニタリングポストの異常なベースラインの動向というご説明が

ありましたけれども、その原因についてはどのように考えているのかということをお伺いしたいと思います。

○榎野委員 まず、指標線量率の欠測についてですが、こちらにつきましては線量率と同時にスペクトルの情報も取っているわけですが、スペクトルの情報が、取り込めなくなってしまう状況が発生することがあり、そのときのデータが指標線量率のところでは欠測となっております。これについては、データをとるタイミングなどが原因として考えられておりますが、まだはっきりした原因はつかめていないところでございます。

それから、塚浜局のデータのベースラインが上昇した件でございますが、先ほどご説明いたしましたように、スペクトルを見ますと、ベースラインの上昇前後と比較すると高エネルギー側で若干ずれはありますが、ほとんど変わるような部分がなく、線量率にベースラインが上昇する形で現れてくることはないのではないかとということが、機器に由来するものと考えた原因でございます。なぜそうなったかということについてはまだわかってはおりませんが、今後そのことについて継続してメーカーのほうと調査をしていきたいと考えております。

○関根委員 わかりました。一番最初の参考資料のデータの置きかえのところのプログラムの修正はもう終わっているということですよ。

それから、こちらの指標線量率のところは、原因がまだ特定できない。また、最後の塚浜局のバックグラウンドの上昇についてもまだはっきりと原因は特定できない。ただし、その前のスペクトルは全部確認していて、それに変わりはないということですね。そうすると、その後の処理系統のところでは何らかのトラブルが瞬間的にこういう期間、起こったというふうに考えておけばよろしいですね。

○榎野委員 はい。

○関根委員 了解いたしました。ありがとうございました。

最後に、先ほど電力さんのほうからご説明いただいた例の1号機の放水口のモニターの上昇の件ですけれども、よく丹念に調べられたと私は思いました。結果的に、淡水層に天然の半減期が大変短い放射性核種が高い濃度で存在するところまで突き止められて、その後の拡散によってどういうふうに検出器位置に近づくかというところで問題を整理されたというところはよかったです。もう一息なのですけれども、これだけ高い濃度のビスマスや鉛の発生源がまだ特定できていないなと思ひまして、もしもそういったところでご意見あれば、引き続き検討していただければありがたいなと思ひました。それが一つです。これはお願いですね。

それから、その後、何らかの対策を講じたいとおっしゃられていたのですが、具体的にどう

いうことを考えられているのかということ、お考えをお聞かせいただければありがたいと思いましたが。以上でございます。

○東北電力 まず初めに、今回の天然核種の発生源につきましては、放水路内の構造材であるコンクリートからの天然放射性物質の溶出、または雨水等からの天然放射性物質の影響と考えておりますが、実際についてはまだはっきりわかっていないところがございますので、引き続き検討してまいりたいと思っております。

また、対策につきましては、一つは放水路内の海水を循環する案、他にも検出器の位置を下げるという案が考えられますが、これも現在、流量が少ない中で実施可能か検証も行わなければならないところもありますので、今後も検討していきたいと考えております。

○関根委員 どうもありがとうございました。こういう事象が何らかの形でちょくちょく出てきたときに、実際のモニタリングを妨害するといいますか、そういうことにつながらないようにしていかなければいけないのではないかと思うのですね。頻繁に出ていますと、それが慣れになってしまいますので、スペクトルを確認するのを多重でやっていただくのは、それはそれで結構ですけれども、このデータを頼りに我々も見ておりますので、それをなるべくなくすような対策があるとありがたいと思いました。

○東北電力 わかりました。

○議長 ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。山崎委員、どうぞ。

○山崎委員 続きといたしますか、今の1号機の件についてお伺いしたいのですが、水量が少ないときの事象ということですが、通常の水量的場合にはこの水面の高さはどのぐらい上がってくるものなのでしょうか。

○東北電力 一例として9ページの図を見ていただきたいのですが、放水路内に、現在もこの中を実際に海水が流れておりますが、こちらについては運転中も同じように流れております。しかし、やはり流量が運転時と停止中では差が大きいものですから、運転中ですと攪拌されて今回のような影響は出ないものと思われま。

○山崎委員 そうすると、水位が上がるというよりは循環というか、混合が起こることによって出にくくなるということですか。

○東北電力 そのとおりだと考えております。

○山崎委員 そうしますと、対策として考え得ると思われるのは、上にたまっている液が、たまった状態にならなくしてしまえばいいのかなという、安直な考えかもしれませんが、常に攪拌する形にしておけば出ないのかなという気もします。

- 東北電力 我々も攪拌できれば、ある程度は解消できるのではないかと考えているところです。
- 山崎委員 あと幾つかお伺いします。関根先生とお聞きしたいことが重なることになりましてけれども、まず、最初のデータの訂正のところについてですが、確認になるかと思えますけれども、平均値の計算をプログラムのような形でやっているのですか。普段の計算の仕方についてもう一度教えていただけませんか。
- 榎野委員 プログラムについて、詳しくは存じませんが、データベースがございまして、平均値をとるときは集計データをデータ数で割るという処理をしておりますが、そのデータについては、通常の点検とか、点検のために照射試験をしたデータとか、そういったデータは欠測扱いとしております。今回の場合は、データ自体は欠測としておりますが、欠測としたデータ数を本当は除かなければならなかったものを、その数をそのまま生かしてしまったため分母が大きくなって、平均値がわずかに小さい数字となってしまったということがございます。
- 山崎委員 そうすると、欠測の数を数えるところは人間がやって入力するようなシステムですか。
- 榎野委員 それもプログラムの中でやっております。
- 山崎委員 そうすると、プログラムのミスだったということですね。
- 榎野委員 そうです。
- 山崎委員 不思議だったというか、移転の際にもう一度データを見られたということは非常によかったと思うのですが、プログラムのミスだとすると、再確認でなかなか出てきにくかったのではないかと思います、お聞きしたのですが。
- 榎野委員 それはこちらの元データをチェックして、出てきた数字を照合し、違いがあったということございました。
- 山崎委員 あと、先ほど最頻値のところは四捨五入というか、そういう話ということなので、この参考資料の中の図に出てくる最頻値とかと、後ろの表の中に出てくる2月の平均値とかとは別のものということよろしいですか。
- 榎野委員 そのところは、基本的にデータテーブルとしてつくってあるところからこの場所にデータを引っ張ってくるものだと思いますけれども、そちらのテーブルの場所が違うのではないかと思います。
- 宮城県環境放射線監視センター 環境放射線監視センターの佐藤です。
- 今のご質問ですけれども、データベースについてメーカーからはユーザーに開示する情報では無いと説明されているので、実際にデータベースのテーブルに具体的にどういう値が入って

いるかについて確認することができません。所長が説明しました、元データに戻って確認したという意味は、電子情報として出力できるプログラムがシステムに入っているのです、そうして出力したデータをエクセルで計算し、合っているかどうか確認をしたということです。グラフと表とで違う値が表示された場合がありますが、最頻値を表示させるべき表の中に最頻値ではなく別な値を表示したとか、同じ最頻値でも別なテーブルのものを表示したとか、そういう引用して表示させるプログラムにミスがあったものとメーカーから説明を受けています。メーカーに対しては、出力された値を確認するよう求め、我々のほうでもエクセルを使って元データから算出して確認するようになりたいと思いますので、よろしくお願いします。

○山崎委員 今回、修正の数字の大きさは、そんなに深刻なものではないと思っていますけれども、間違いが出てきてしまいますとやはり信頼性の問題になってしまいますので、今後も気をつけてやっていただければと思います。

○榎野委員 どうも申しわけございませんでした。

○山崎委員 もう一つ、塚浜の可搬型のモニタリングポストの件についてもお伺いします。

ベースラインが上がったのが4月26日で、メーカーの点検が5月9日ということですが、メーカーは点検をしたけれども結局は異常なかったということですね。ということは、機械そのものに関して調整等は特段何も行わなかったけれども、調べて戻してみたら、もとにもどってしまったというような理解でよろしいですか。

○榎野委員 具体的に作業をした内容は今お話のあったとおりでございます。実際メーカーで行った作業は、照射試験をしまして、照射したデータの結果が機器の誤差範囲の中であって、機器としては異常ではないということでもございました。その際に測定器を拭くなどはしたという話がございましたが、その影響でこれだけの差が出ることは考えにくいというデータの検証をしたということでもございます。

○山崎委員 もう一つお伺いしておきたいことは、こういった異常といいますか、データに普段と違う様子が見えたときの処理というか対応について、どのような流れになっているのかをお聞きしたいと思います。4月26日からこうなってきたわけですが、それに対して、センターのほうでどのように認識してどういう対応をとって5月9日に至ったのかというあたりを教えてくださいたいと思います。

○榎野委員 本来であれば、こういった事象が見られてすぐに気づくべきだったということでもございます。ただ、毎日の測定データのチェックを日報で1日グラフの形で主にチェックしておりますが、1日のグラフで見ると、なかなか気づきにくい変化だったということがございませ

た。毎日ではありませんが、定期的に長期間のグラフを確認しておりましたが、そのタイミングが遅く発見が遅れてしまいました。また、期間中に連休・土日などがあり、メーカーの点検も少し遅れてしまったという状況がございました。

○山崎委員 大体わかりました。どういう原因で起こっているかにもよるかと思いますが、万一、不測の事態だった場合の対応というのは非常に大事になるかと思しますので、その辺またよろしく願いいたします。

○榎野委員 今後ともじっくりと見ていきたいと思えます。

○議長 ありがとうございます。システムの切り換えに伴う数字のチェックについては、しっかり対応させていただきたいと思えます。

ほかにございませんか。神宮委員、どうぞ。

○神宮委員 私が聞きたいことは、ほぼ関根先生の質問にありましたので、一つだけ確認させていただきたいのですが、1号機の放水口モニターの計数率上昇についてですが、震災の後、モニターの形式が浸水式に変更になったということですが、採水式であったときは、立坑のどのぐらいの深さから採取していたのでしょうか。それによって、これを見ると、しっかりと放水路の中の深いところに入ってしまう方がいいと思うのですが、毎回同じ深さのところでは測っていかねばならなかったのではないかと、という結論になるのではないかと、思うのですが、いかがでしょうか。分かっていたら結構です。

○東北電力 また9ページの図をご覧ください。

以前、採水式の場合は、放水路のちょうど丸がございしますが、こっちの中間付近、現在の検出器の下部から1メートル下付近から採取をしておりました。

○神宮委員 なるほど。そうしますと、前のデータと照合するなら、やはり今後はモニタリングの位置を深く引き下げるなどしたほうが、やはりいいのではないかなというふうに思えます。以上です。

○東北電力 ありがとうございます。その点もあわせて今後検討してまいりたいと思えます。

○議長 ありがとうございます。特にほかにございせんでしょうか。

(1) 評価事項

ロ 女川原子力発電所温排水調査結果（平成27年度第1四半期）について

○議長 それでは、次の評価事項ロの平成27年度第1四半期の女川原子力発電所温排水調査結果について説明をお願いします。

[水産技術総合センターから説明]

○議長 ありがとうございます。ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問がございましたらお願いいたします。山崎委員、どうぞ。

○山崎委員 塩分の鉛直方向の分布といいますか較差に関してなんですが、4月と5月で、4月はかなり鉛直方向に差があるのですけれども、5月はかなり均一になっていますね。これは一般的なことでしょうか。

○事務局 4月は降雨がございまして。パワーポイントのほうで示します。

下の棒グラフが降雨です。前日14日も降ったんですけれども、15日も39.5ミリの降雨量がございまして、それで表層の塩分が低くなっているところがございます。

○山崎委員 了解。わかりました。ありがとうございます。

○議長 ほかにご意見、ご質問ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

(1) 評価事項

ハ 女川原子力発電所環境放射能調査結果（平成26年度）について

○議長 それでは、次の評価事項ハの平成26年度の女川原子力発電所環境放射能調査結果について説明をお願いします。

[環境放射線監視センター榎野委員から説明]

○議長 ありがとうございます。ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問がございましたらお願いいたします。はい、どうぞ関根委員。

○関根委員 広域のモニタリングステーションにおける参考値の表示ですけれども、ここの技術会の資料として、多分私も見ていなかったと思いましたが、参考とは言いますけれども、その辺の説明をちょっとお願いしたい。前に技術会で出ておりますか。

○榎野委員 今日の四半期報告のほうの資料を見ていただけるとおわかりいただけるかと思えますけれども、先ほどの四半期報告の16ページをご覧いただきたいと思えます。そちらに参考として、広域モニタリングステーションにおける空間ガンマ線線量率の測定結果といたしまして、計10カ所の広域モニタリングステーションの統計値を載せてございます。

○関根委員 では、これをまとめて、年報のほうとして再計算させたということですね。わかりました。どうもありがとうございます。特にこちらのほうで変わったところはございましたか。

○榎野委員　ございませんでした。

○議長　ほかにごございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、いろいろご質問、ご意見はいただきましたけれども、平成27年4月から6月までの環境放射能調査結果及び温排水調査結果と、平成26年度の環境放射能調査結果の評価につきまして、本日の技術会でご了承いただいたものとしてよろしいでしょうか。

〔異議なし〕

ありがとうございます。それでは、これをもってご評価をいただいたものといたします。

(2) 報告事項

イ 女川原子力発電所の状況について

ロ 女川原子力発電所2号機における新規規制基準への適合性審査の状況について

○議長　次に、報告事項に移ります。

報告事項のイの女川原子力発電所の状況についてと、ロの女川原子力発電所2号機における新規規制基準への適合性審査の状況について説明をお願いいたします。

〔東北電力株式会社から説明〕

○議長　ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問がございましたらお願いをいたします。

関根委員、どうぞ。

○関根委員　幾つかお願いいたします。

最初のご説明の2ページ目のところで、タンクを地下化するという、小分けするということは、被害をなるべく少なくする意味でもいいかなと思うのです。そのときに竜巻や火山などの自然現象に対する信頼性の向上ということですが、カバーをつけて守るといのはどの程度の現象を想定してカバーをつけられるのかなというのが1つ疑問になりました。

それから、次のチャンネルボックスのクリップの欠損についてなんですが、そういう現象がいつ起こったのかが特定できているのかということが1つです。

あと、もしも欠損して、その一部が中に剥がれ落ちるといいますか放出されるとすると、その回収とかその辺が気になります。バルブに小さなものが挟まったりしまして大変重大なことになりますので。

最後に、この原因を特定して溶接の設備を更新されたということなのですが、これをもってその先どうやってその性能を確認していくのか、その辺についてお伺いしたいと思います。

した。よろしくお願いします。

○東北電力 まず、1つ目の軽油タンクの地下化の工事につきましてご回答させていただきます。

外的事象から守るということで、デッキプレートと言われるプレートを上に敷くことは当然でございますが、それに対します強度的なものとしましては、竜巻の評価も今、継続実施中でございますが、一部車両が竜巻により浮き上がるとか、そういったものも評価してございます。そういったもので、発電所にある飛来物となりそうなものを調査して、そういったものの影響を確認して対策を打つという形になります。

それと、チャンネルボックスのほうでございますが、いつの時点で発生したかというのは、燃焼度によるものでもなく、今のところ、いつの時点でこの腐食が発生したかというのは確認できていない状況でございます。

このクリップ部が取れて炉内に入っていくことで機器への影響がないかという関係でございますが、クリップの損傷をこれまでみてございますが、全てなくなるような損傷ではなく、どうしても溶接の端部に限られてみえる事象になります。ということで、クリップ部が脱落するという事は考えてございません。

それと、万が一、端部から中央部まで片辺の腐食が進行したとして、もう一辺の溶接部だけで強度的に問題ないという確認をしており、それでも水の流れ、炉内の影響等でクリップ部が脱落することはないという評価をしてございます。

それと、設備の更新工事につきまして、今回の事象は、溶接部に大きな熱量が加わって耐腐食性が悪い組織形状になってしまっていたということが原因でございます。更新した設備の熱量を確認しまして、その熱量で組織形状に問題ないということを確認し、耐腐食性としては向上していることを確認してございます。

○関根委員 その最後のところですけども、いつこれは破損したかというのは今わからない状況です。確かにそれらしい原因は思いつくのだけれども、その機能の評価は何らかの形でやられていたほうがいいのではないかと私は思います。今後使用するに当たって、このくらいの数が起こっているわけですから、機能評価をしたほうがいいのではないかと思うんですけども。

○東北電力 今おっしゃられたとおりでございます。まさに今、規制庁様とも継続使用に関しまして、この辺の継続使用が問題ないかどうか継続的にヒアリングをやってございますので、そちらの状況につきましてはまたご説明させていただきたいと思っております。

○関根委員 どうもありがとうございました。

○議長 ありがとうございます。

ほかにご意見、ご質問ございませんか。神宮委員、どうぞ。

○神宮委員 私もチャンネルボックスの欠損のところでは質問というか確認があります。老朽化や震災の影響ではないということでしょうか。

○東北電力 まず3・11の地震動を評価しまして、それによるものではないという確認をしてございます。

○神宮委員 この破損に関しましては、ほかの原子力施設でも報告が上がってきていますでしょうか。

○東北電力 3号機で見つかり、当時、水平展開で電力各社も点検いたしまして、やはり同じメーカーの同じ時期につくったチャンネルボックスについては同様の事例が見られてございます。

○神宮委員 ありがとうございます。

○議長 それでは、山崎委員、どうぞ。

○山崎委員 ほとんど同じことで、先ほどのウォーターロードに関しては、規制庁さんのほうから各社さんに点検が入ったということですが、チャンネルボックスに関しては、女川だけのことでいいのかと、全国、ほかのところでは問題になっていないのかをちょっとお聞きしたかったんですが、既にお答えいただいたかと思います。

○東北電力 詳細申し上げますと、4ページ目の2段目をご覧いただきたいんですが、経緯になりますけれども、7月10日に3号機の点検を行いまして、規制庁様のほうにご報告いたしました。済みません、8月10日、3段目ですね。この時点で電力各社のほうにも点検の指示文書が発出されてございます。

○議長 よろしいでしょうか。ほかにごございませんか。はい、どうぞ関根委員。

○関根委員 申しわけないのですが、意味を理解させていただきたいんですが、例のベントのところのご説明で、地上36メートルのところから大気放出する件です。そこでフィルターなどを設けて放出されるのだと思いますが、**「地形の効果により、放出高の違いによる影響は限定的」**となっていますけれども、これはどういうことを意味しているのか。

○東北電力 詳細説明をせず申しわけありませんが、この評価としましては、リアクタービルの屋上から放出した場合の拡散の影響と、排気塔から放出した場合の拡散の影響の評価を比較してございます。その比較の結果、仮に原子炉建屋の屋上から放出した場合を1としますと、排気塔から放出した場合の拡散の影響評価としましては、大体敷地境界で近いところでは0.67、5キロ地点におきまして0.95ということで、地形の効果を見ますと、ある程度限定された意味合いになるだろうという評価でございます。

○関根委員 どうもありがとうございました。

それで限定的という意味ですが、5キロで0.95。そうすると、遠くになると余り関係ないと。近いところだと高いところのほうが。

○東北電力 はい、拡散は効果的にはされないと。

○関根委員 その説明がなかったなので、私もわからないんですけども、その話を聞くと、遠いところで0.95、近いところで0.67なのだから、高いところから出したほうがいいという結論だったら今の説明でわかります。でも、その逆なんですよ、やっていることは。

○東北電力 なぜ原子炉建屋の屋上から放出することにしたかということでございますが、フィルターベント装置を抜けた後の配管の敷設ルートをいろいろ検討しまして、排気塔から放出する場合には下り勾配になるところがございます。下り勾配になると、水素の滞留等の影響もありますので、配管がなるべく上り勾配を継続したままで放出することを考え、原子炉建屋の屋上から放出するという事にいたしました。

○関根委員 全体的な幾何学的な配置の問題ということですね。

○東北電力 そういうことでございます。

○関根委員 わかりました。ありがとうございました。

○議長 ほかにございませんでしょうか。

それでは、特にないようでございますので、これで報告事項を終了いたします。

4. その他

○議長 その他の事項として事務局から何かありますか。

○事務局 次回の技術会の開催日を決めさせていただきたいと思っております。

3カ月後の平成27年11月6日金曜日、仙台市内で開催したいと考えておりますが、いかがでしょうか。

○議長 ただいま事務局から説明がありましたが、次回の技術会を11月6日金曜日、仙台市内で開催するという事でよろしいでしょうか。

〔異議なし〕

それでは、次回の技術会は11月6日開催ということでございますので、よろしく願いいたします。

その他、何か委員の皆様でご意見、ご質問等はございませんでしょうか。関根委員、どうぞ。

○関根委員 今年の4月に宮城県の環境放射線監視センターが開始されまして、大変よかったと

思っておりますけれども、数カ月たった現時点での稼働状況とか不都合等について情報としてお教えいただければありがたいと思いました。

○榎野委員 4月から新しい場所で業務を行っているところでございますが、先ほど申し上げましたように、常時監視のシステムでプログラムの不具合等がございまして、その確認作業を鋭意行っているところでございます。

また、放射能の検査ですけれども、震災後これまで、委託業務として行っていたものがございまして、それらにつきましては新たに機器を購入し、前処理の段階から最終的な検査の結果を出すところまでできるような体制を構築しているという段階でございます。本年度前半につきましては一部委託を継続しておりますが、第3四半期以降につきましては全て監視センターが結果を出すということで作業を行っているところでございます。現在の状況はそういったところでございます。

○関根委員 どうもありがとうございます。

○議長 そのほか何かございませんか。

それでは、ないようでございますので、これで本日の議事を終了させていただきます。ありがとうございました。

5. 閉 会

○司会 それでは、以上をもちまして第134回女川原子力発電所環境調査測定技術会を終了いたします。

本日はどうもありがとうございました。